

大会名 Competition	第35回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO, M-109	Year Month Day Time 2022 年 5 月 5 日 10 : 50
場所 Place	能代市総合体育館

発行：能代市バスケットボール協会  
http://ncup.snowland.net



チーム A		チーム B					
中部大第一		開志国際					
66 ●	<table border="1"> <tr><td>13 1st 14</td></tr> <tr><td>20 2nd 27</td></tr> <tr><td>19 3rd 17</td></tr> <tr><td>14 4th 17</td></tr> <tr><td>0 T</td></tr> </table>	13 1st 14	20 2nd 27	19 3rd 17	14 4th 17	0 T	75 ○
13 1st 14							
20 2nd 27							
19 3rd 17							
14 4th 17							
0 T							

主審:Crew chief  
谷地 温 秋田  
副審:Umpire  
佐藤 良明 秋田  
佐々木 飛翔 秋田  
テーブル・オフィシャルズ:Table officials  
秋田県TO委員会

No.	Pl-in	選手氏名 Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	Pl-in	選手氏名 Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	小澤 飛悠 CAP	18	4	3	0	3	4		諸星 然 CAP	-	-	-	-	0
5	×	坂本 康成	12	1	4	1	1	5	×	武藤 俊太郎	13	1	4	2	2
6	×	下山 瑛司	11	1	3	2	2	6		境 アリーム	-	-	-	-	0
7	×	小田 晟	12	2	1	4	4	7	×	介川 アンソニー 翔	21	0	9	3	4
8	×	ンベイエ ムハマド	11	0	5	1	4	8	／	日下野 アスカ	5	1	1	0	2
9		住吉 大和	-	-	-	-	0	9	×	武内 優空	6	0	3	0	2
10	／	吉本 陸人	2	0	1	0	1	10	×	澤田 竜馬	19	5	2	0	2
11	／	山下 大志	0	0	0	0	0	11		石森 健慎	-	-	-	-	0
12		佐渡 樹也	-	-	-	-	0	12		牛尾 温	-	-	-	-	0
13		三浦 悠詩	-	-	-	-	0	13		堀井 敬太	-	-	-	-	0
14		辻村 昂汰	-	-	-	-	0	14		NNEBUFFE KELVIN CHIEMELIE	-	-	-	-	0
15	／	トゥレ サリウ	0	0	0	0	1	15	×	BASHIR FAISAL MUHAMMAD	11	0	5	1	2
16	／	榊原 蒼空	0	0	0	0	0	16		葦澤 空都	-	-	-	-	0
17		鈴木 真成	-	-	-	-	0	17		フリッシュ ニコラス 聖	-	-	-	-	0
18		川俣 雄大	-	-	-	-	0	18		高千穂 海璃	-	-	-	-	0
コーチ		常田 健					0	コーチ		富樫 英樹					0
Aコーチ		西村 彩					0	Aコーチ		津野 祐樹					0
合計			66	8	17	8	16	合計			75	7	24	6	14

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

Score ranking[Team]

1	18	27.27%	小澤 飛悠
2	12	18.18%	坂本 康成
3	12	18.18%	#

1	21	28.00%	介川 アンソニー 翔
2	19	25.33%	澤田 竜馬
3	13	17.33%	武藤 俊太郎

Score ranking[Game]

1	21	介川 アンソニー	開志国際	2	19	澤田 竜馬	開志国際	3	18	小澤 飛悠	中部大第一
---	----	----------	------	---	----	-------	------	---	----	-------	-------

3戦全勝同士の対決は第35回大会の決勝ゲームとなった。

1Q、両チームとも出だしの動きは固く、緊張気味で3分間無得点。その後もなかなかリズムに乗れず点につながらない展開が続く。フリースローとガード陣の点の取り合いに終始して13-14。

2Q、ディフェンスの圧力は強く、センター同士は相殺されている。開志国際は時折放つ#10澤田の3Pが効果的で徐々に差をつけはじめる。乱戦気味になると開志国際#7介川のタレントが生きて、8点差の33-41。

3Q、後半のスタートは中部第一が粘りを見せてシーソーゲームとなる。前半開志国際#15バシールにやられっぱなしだった中部大第一#15トゥレが頑張ったが、2点差まで詰め寄ったところで息切れ。52-58。

4Q、両チームとも戻りが速く、ディフェンスが良い。またルーズボールに対する執念も素晴らしく、決勝にふさわしい好ゲームで、バスケの面白さを感じさせてくれた。最後は開志国際#10澤田が長時間のキープからドライブを決め、66-75。開志国際が優勝を決めた。